

八タハタ資源対策協議会資料

水産振興センター

表1 秋田県における漁獲可能量と漁獲実績の推移

単位:トン

年	沖合			沿岸			合計		
	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)
平成 7年	85	53	63	85	89	104	170	142	84
8年	110	81	74	110	157	143	220	238	108
9年	180	139	77	180	288	160	360	427	119
10年	300	162	54	300	436	145	600	597	100
11年	400	142	36	600	537	89	1,000	679	68
12年	400	265	66	600	886	148	1,000	1,151	115
13年	520	506	97	780	958	123	1,300	1,464	113
14年	680	384	56	1,020	1,444	142	1,700	1,828	108
15年	960	906	94	1,440	1,939	135	2,400	2,845	119
16年	1,000	707	73	1,500	2,200	157	2,500	2,906	116
17年	1,000	489	49	1,500	1,864	124	2,500	2,353	94
18年	800	943	118	1,200	1,636	136	2,000	2,579	129
19年	720	846	118	1,080	771	71	1,800	1,618	90
20年	1,200	868	72	1,800	2,019	112	3,000	2,887	96

平成9年以降は、沖合は管理漁期(9月～翌6月)、沿岸は漁期(11月～翌1月)の合計値(水産漁港課調べ)

H20年の配分枠に対する実績は、沖合72%、沿岸112%、全体で96%となった。

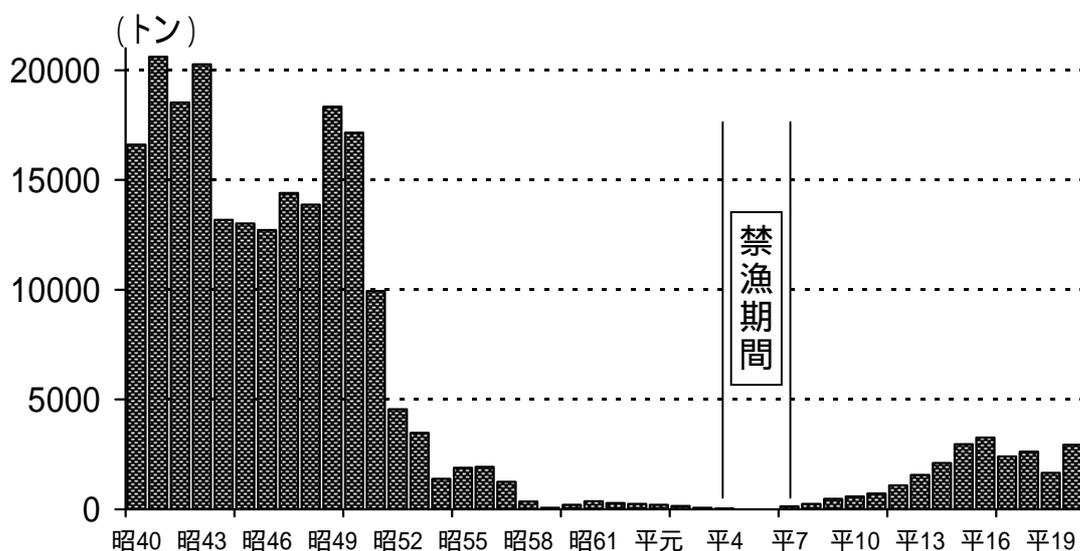


図1 秋田県における八タハタ漁獲量の推移

(H19年以前は農林水産統計、H20年は東北農政局速報値)

H19年に大きく減少した漁獲量は、H20年にはH15～H18年の水準に回復した。

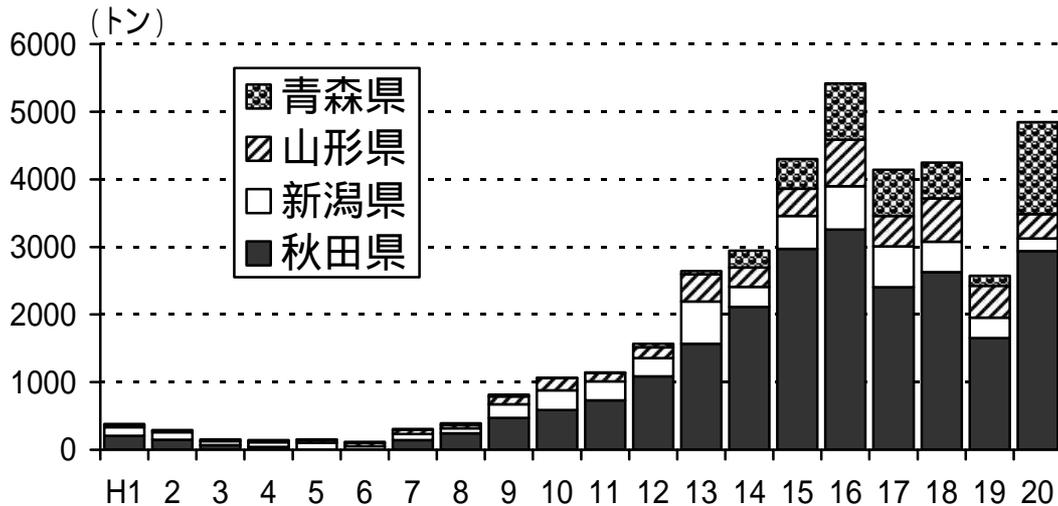


図2 日本海北部4県における漁獲量の推移

4県の総漁獲量は、H14～18年の4000トン以上から、H19年は2576トンに減少したが、H20年は再び4800トンを超えた。

秋田県の割合は60.6%で、前年に比べ4ポイント減少した。

県別では秋田2938トン(前年比178%)、青森1363トン(＼909%)、山形359トン(＼76%)、新潟185トン(＼61%)と、青森県での増加が著しい。

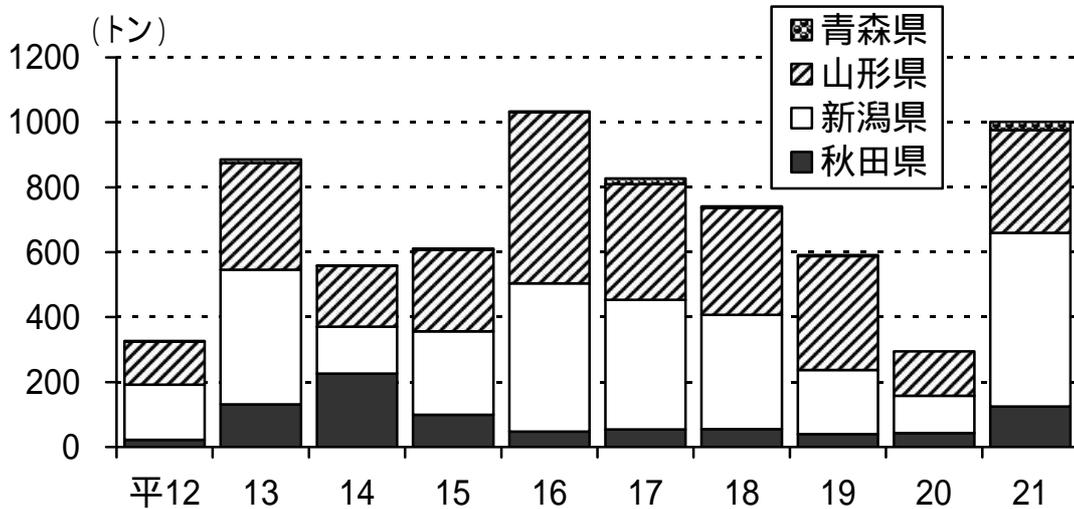


図3 1～6月における日本海北部4県底びき網漁獲量の推移

(水産振興センター調べ)

H21年の日本海北部4県での漁獲量は1002トンで、前年の340%と著しく増加した。

各県の漁獲量は、新潟534トン(前年比464%)、山形317トン(＼232%)、秋田125トン(292%)で、新潟県での大きな伸びを筆頭に軒並み増加した。

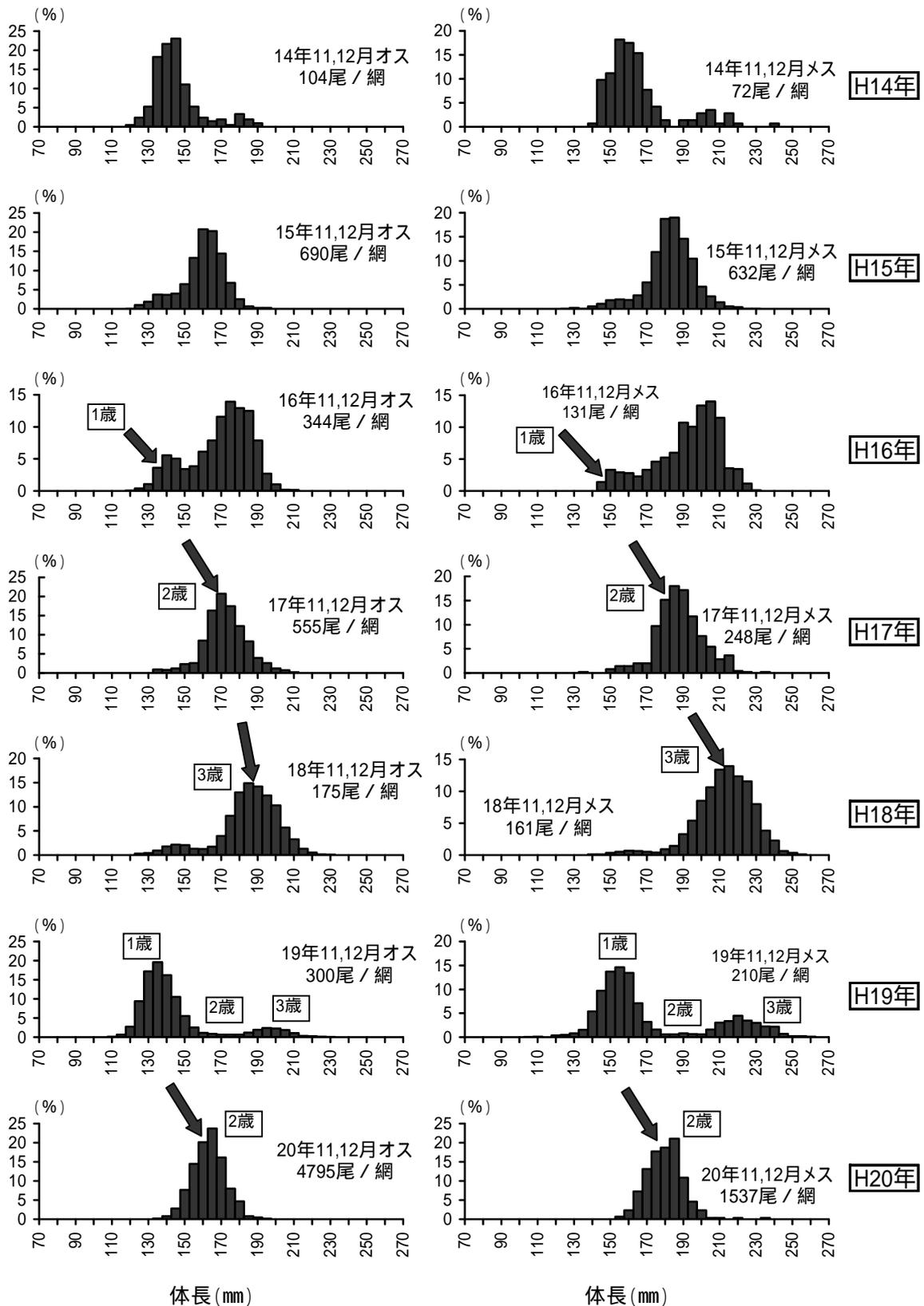


図4 11、12月におけるハタハタ体長組成(千秋丸底びき調査)

【昨年の傾向】

オス、メスとも2歳魚(H18年生まれ)を主群とし、他の年齢群の割合は非常に低かった。

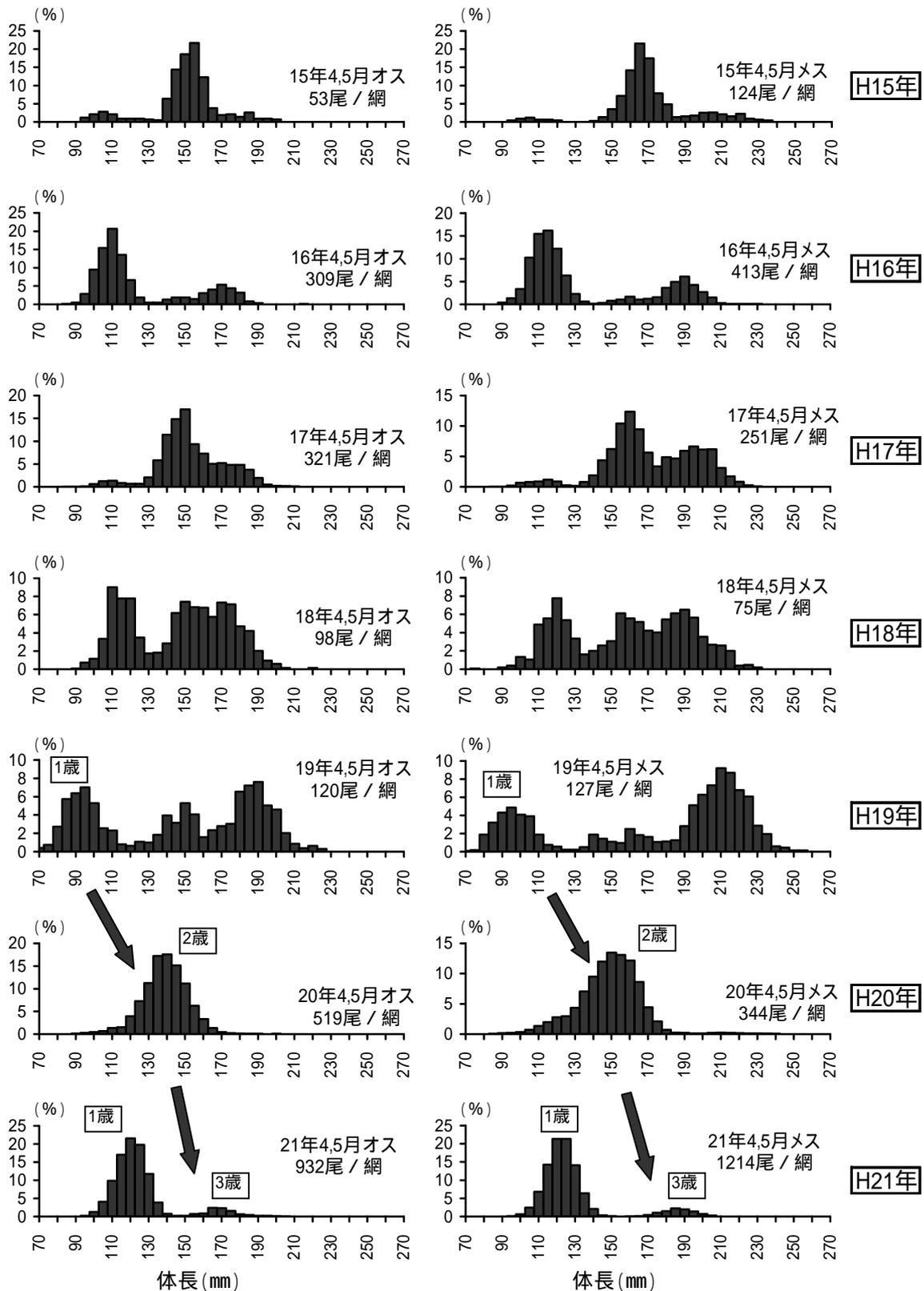


図5 4、5月における八タハタ体長組成(千秋丸底びき調査)

【今年の傾向】

1歳魚(H20年生まれ)の割合が例年になく高く、昨年の主群だったH18年生まれ(今季3歳)の割合は低かった。

2歳魚(H19年生まれ)の割合は非常に低かった。

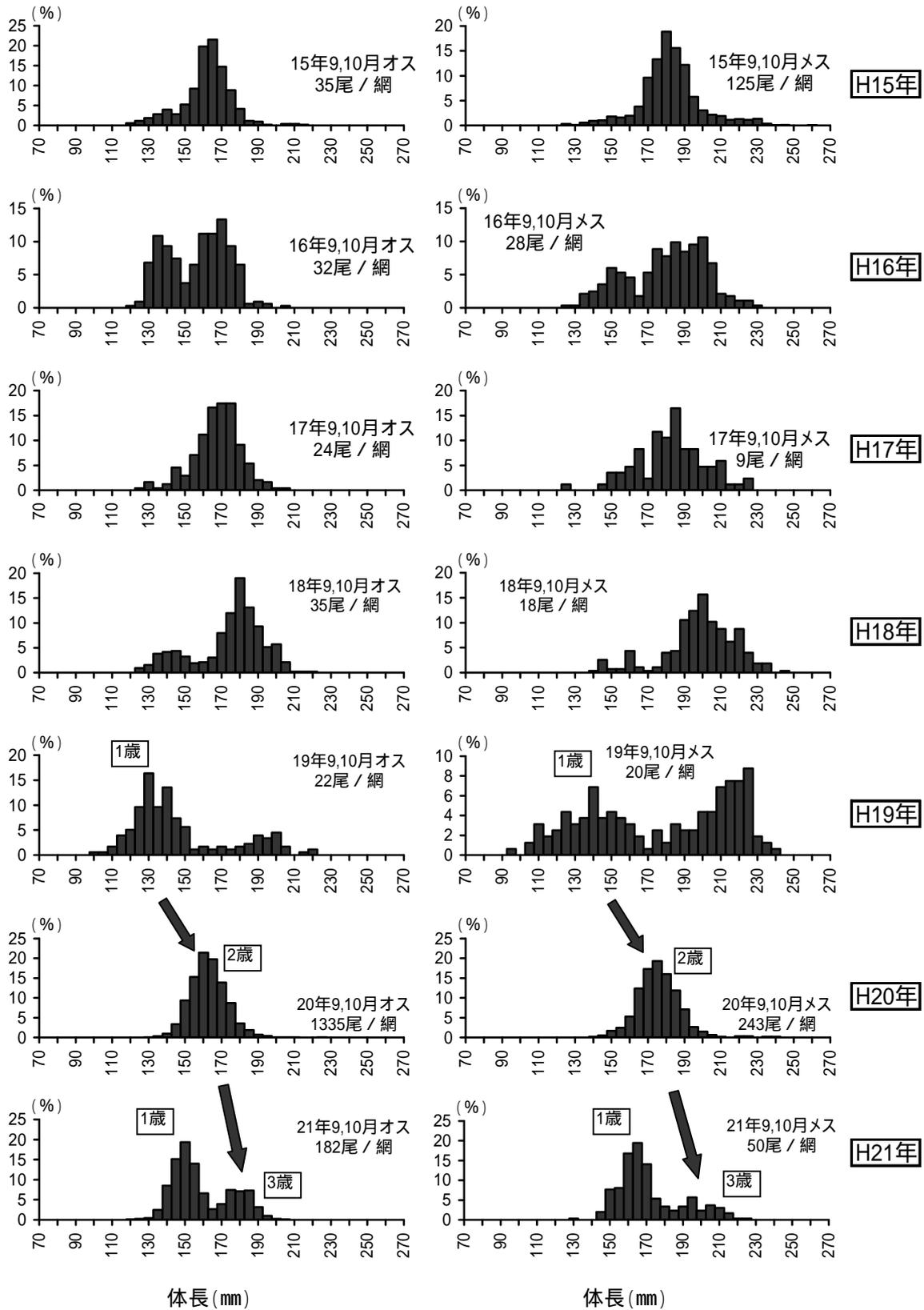


図6 9、10月におけるハタハタ体長組成(千秋丸底びき調査)

【今年の傾向】

9、10月時点では1歳魚が多く、次いで3歳魚が多い。2歳魚は非常に少ない。

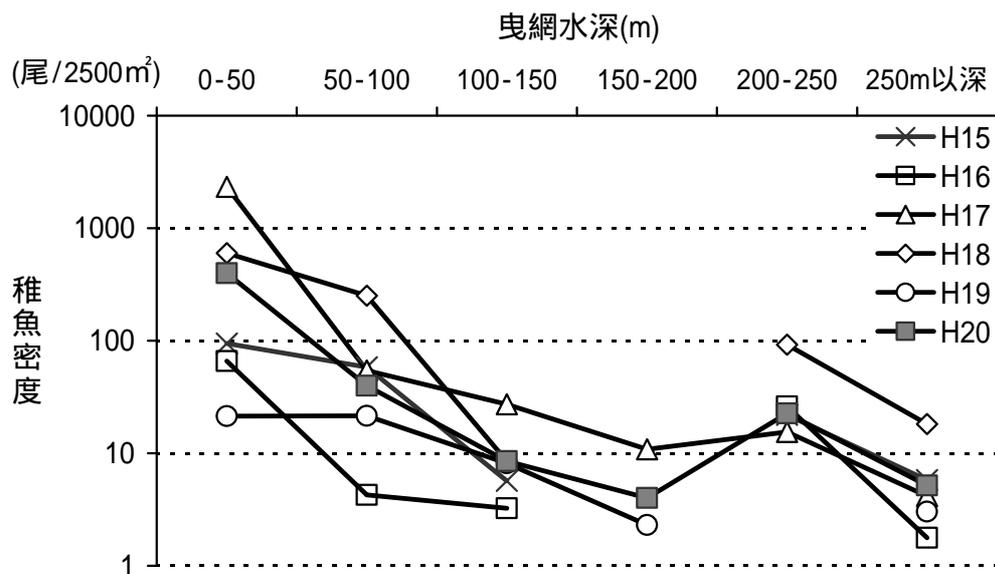


図7 4～8月におけるハタハタ仔稚魚の採集数(第二千秋丸調査)

H20年生まれは本年12月に初めて接岸する。水深250m以深でのH20年生まれの稚魚密度は、H19年生まれの約1.7倍で、尾数が比較的多かったH15年生まれと同程度の水準だった。

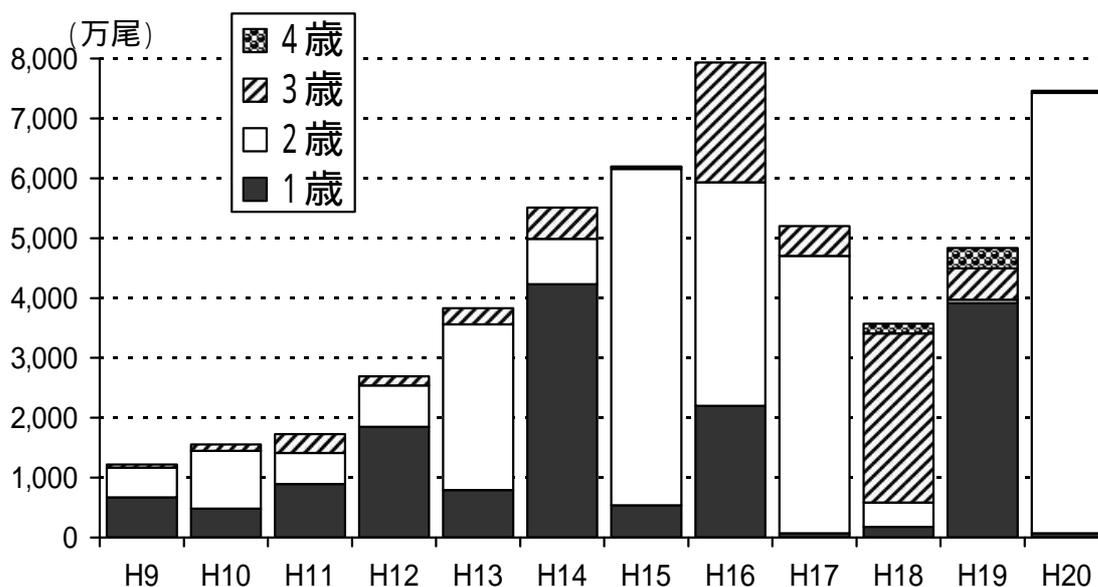


図8 日本海北部4県における年齢別漁獲尾数の推移
(H14年までは1～3歳の3群、H15年からは1～4歳の4群に分離)

H20年漁期はオス・メスともに中型の2歳(H18年生まれ)を主体とし、他の年齢群は非常に少なかった。

H21年漁期は、H18年生まれの3歳が主体となる。また、稚魚調査及び今春の底びき調査結果から、1歳(H20年生まれ)も比較的多いと考えられる。

H21年漁期のハタハタ漁獲対象資源量

H21年漁期のハタハタ資源は、昨年も主群だったH18年生まれ(今季3歳)が主体となり、それにH20年生まれ(1歳)が混じると考えられる。

今漁期における1歳の尾数は、尾数が非常に少なかったH19年生まれの約25倍と推定され、かなり多いものと考えられる。従って、今年の資源全体に占める1歳の割合はかなり高いと考えられる。

解析の結果、秋田県の漁獲対象資源尾数は、

1歳	2718万尾
2歳	143万尾
3歳	4418万尾
4歳以上	19万尾
合計	7298万尾

と推定され、**資源量は約 6500 トン** となった。